

令和7年度 第1回学校運営協議会 記録

期日：令和7年5月29日（木）

時間：9:30～11:20

場所：サーモンホール

授業参観 9:30～10:00

1 開会行事 10:00～10:10 ※ 進行：担当副校長

ア 開会のことば

イ 会長挨拶

ウ 委員・職員の紹介

2 議事 10:10～11:00 ※ 進行：学校運営協議会長

ア 令和7年度学校経営について

○意見・質問

【A委員】

校長先生からの説明の中で、災害関係のお話がありました。今回、大船渡の山林火災に関して、私たちもそこまでは想定していなかった事案が発生したと感じています。これまでは地理的な特性を踏まえ、津波や土砂崩れ、洪水への対策を検討してきたと思いますが、山林火災に関しては、何か議論されている対応策等がありますか。

【学校】

例年、避難訓練を年3回行っています。そのうちの2回目の避難訓練は、山林火災の想定で行っています。延焼による二次被害を想定し、宮古カントリークラブまで避難する訓練をここ数年行っています。今回の2月の林野火災の時には、これまでは二次避難までを想定した避難訓練で終わっていましたが、その先も考えなければいけないと職員間で話題になっています。

【B委員】

経営計画の中にある障がいの特性に応じた適切な指導が、実際になされていると感じました。子供たちの集中する様子や笑顔が全てを物語っているように感じました。交流学习を行っていますが、子供たちの交流だけではなく、私たち職員にとっても良い刺激となっており、個に応じた指導や特性に応じた指導等、教員の資質の向上に繋がっていると思います。今後とも私たちの勉強の場とさせていただきたいと思います。

イ 令和7年度各学部経営方針・学部紹介について

ウ 令和6年度進路状況報告

○意見・質問

【A委員】

高等部の生徒で就労アセスメントの人数を教えてください。高等部の人数が36名ということで、卒業生の進路が大変だろうという思いと、アセスメントも慌ただしくなってくると思いました。

【学校】

人数については、確認して、後ほどお知らせいたしますが、取組としてまずは4月に、関係機関と宮古市の担当の方に来ていただいて、保護者と職員にアセスメントに関する説明をしていただき、前期実習から後期実習までを見据えて、希望する生徒に対して計画を進めていただいています。

【A委員】

就労選択支援とか制度が新しく入り込んできたので、就労系も混乱していると思います。進路選択は大変だと思いますが、是非希望する進路が叶うように支援していただきたいと思います。よろしくお願いします。

【学校】

昨日、別な会議で、宮古市に就労移行支援事業所は1か所しかない中で、現時点では、まずアセスメントをしっかり行いながら進めていくというお話がありました。関わる施設は大変だと思いますが、学校としてはしっかり卒業生を知っていただき、協力していただきながら進めていくことを確認させていただいています。

【C委員】

高等部の恵風太鼓についてです。昨年、我が子もわかたけ晨祭に参加しましたが、すごくよかったです。先生方は準備など大変だとは思いますが、生徒たちは演奏後も出店で買い物をしてみんなで楽しく過ごしていました。校外での活動に参加することで、学校行事では経験できないことを体験し、新たな経験値が積み重ねられることはとても良いことだと思います。また、恵風太鼓の取組を、地域の人や様々な人に知ってもらうきっかけにもなると思います。お祭りにはいろいろな人が来ており、恵風太鼓の取組を初めて知った方もいると思います。こういう取組を引き続き行ってほしいと思います。

【学校】

今年度は、崎山小学校の150周年記念式典への出演依頼を受けているので、昨年よりも演奏機会が1回増える予定です。また、先ほど話題になった、休みの日に学校外で友達と一緒に遊ぶ経験は、実はそれほど多くはないと思われます。想定される様々なトラブルを回避しつつ、少しずつ経験を積んでほしいと思います。地域の方々の見守りにとても感謝しています。

【E委員】

進路状況報告において、生活介護の入所・通所が各1名となっていますが、具体的に説明していただきたいです。

【学校】

入所は施設を生活の中心としている方であり、通所は自宅に住みながら日中の活動を提供していただく施設に通う方のことです。しかしながら、現在、入所できる施設の空きがなく、入所を希望する方が順番待ちといったケースが多いのが現状です。

【E委員】

入所はどこでできるのでしょうか。

【C委員】

障がい者の入所施設は岩手県内にたくさんありますが、近いところではわかたけ学園があり

ます。施設によって利用状況は異なると思いますが、入退所がたくさんあるわけではないので、滞留化しているということもあると思います。希望されてもなかなか希望どおりにならない状況です。

【学校】

8 ページに具体的進路先がのっています。わかたけ学園さん、S E L P わかたけさんです。同じ生活介護ですが、自宅から通所されています。その生活の場も含めて、入所の方とは同じ生活介護ではありますが、それぞれ異なる状況にあります。

エ その他

3 提言

11 : 00 ~ 11 : 25

【B 委員】

小学校 1 年生の 5 人の子供たちが、机に向かってしっかりと授業を受けている姿を見ました。子供たちのしつくと、魅力のある授業を日々準備されていることが素晴らしいと感じました。先生方の努力に頭が下がる思いでした。本校との関係では、学校経営計画にあるセンター的機能の充実という部分が重要だと考えております。本校は今年、自閉症・情緒と病弱の 2 学級の特別支援学級を新設しています。自閉症・情緒は 3 年前にもありましたが、生徒の卒業とともに昨年度なくなり、今年度、再度新設した経緯があります。特別支援の免許を持っている教員がいない中、手探りで自分自身の経験に基づきながら学級経営を行っている状況です。いろいろな場面でご指導いただきたいと思います。また、現在 3 年生の通常学級に車椅子を使用している生徒がおります。修学旅行を迎えるにあたり、先ほど校長先生から声を掛けていただきました。特別支援学級在籍者だけでなく、通常学級にも支援の必要な生徒がおりますので、進路選択に関わるアセスメントや指導の在り方について、助言いただきたいと思っております。

【C 委員】

支援学校を訪問するのは久しぶりでした。生徒さんがたくさんいらっしゃる中で、一人ひとりの個性や特性に寄り添った教育を実践している姿を見せていただき、非常に頼もしく感じました。先ほど就労アセスメントの話題が出ましたが、私からの情報提供として、基本的に就労アセスメントは国としては 1 か月間で実施することになっています。宮古市では実施機関が少ないため、15 日間に短縮してやりましょうというルールを決めて実施しています。しかし、今年度については、支援学校以外の方もアセスメントを受けることになり、10 名を超え、実施が難しい状況にあります。そのため、先日協議を行い、市町村の体制として 15 日間を 10 日間に短縮して実施することに決まりました。この流れに沿って進んでいくことになると思います。

一つ質問があります。自分は高等学校の協議会員や第三者委員を務めた経験もありますが、今回の校長先生のお話では、支援学校や恵風支援学校ではいじめがあまりないとのことでした。他の学校では、いじめに関わる細かいアンケート調査を保護者や本人に行っているところもありますが、恵風支援学校さんでも実施しているのか教えていただきたいです。

【学校】

本校では、児童生徒の悩みやいじめの兆候等を把握するために学校生活アンケートを年 2 回実施しています。アンケートは、生徒と保護者に記入していただいています。1 回目が 7 月にあります。加えて、心の相談室という県が行っている取組に沿って、児童生徒の悩み相談を拾い上げる工夫をしています。これは、児童生徒が持っている一人一台端末を使い、簡単な操作で生徒の悩みを拾えるようになっているものです。端末を使うことが難しい児童生徒もおりますが、使える生徒にとっては自分から発信できるような体制も整備しています。ただし、今まで生徒が使用した実績はあり

ませんので、安心しております。アンケート調査等も大事だと考えますが、やはり一番大事なことは、日々接する中で担任の先生方が、日常生活の中で生徒の表情や様子をよく観察し、普段と異なる様子や変化を読み取ることだと思っています。保護者の方々の考える安心安全な学校とは、通学路の安全もありますが、子どもが毎日学校に通えることが楽しいと感じていることこそがもっとも大事ではないかと思っています。様々な対応をとおして、生徒の困り感を見逃さないように、生徒の様子に気付いていけるようにしていきたいと考えております。

また、スクールカウンセラーが年に何回か来校し、いじめに限らず相談できる機会を設けるなど、様々な状況に対応しています。支援についても、何より普段から先生方がしっかり見て対応していると感じています。ちょっとしたところでも気になるところは、大きくなる前に対応していますので、いじめみたいなことが大きくなる前に芽を摘んでいるのではないかと感じています。そこは引き続き、どのような状況でも続けていかなければならないと思っています。

【E委員】

初めて授業参観をさせていただきました。驚いたことは、職員の数の多さでした。生徒さんと1対1ぐらいの数の先生がいることに驚きを感じました。今後も頑張ってもらいたいと思います。

【D委員】

我が子の話になりますが、小学校までは普通学校の支援学級に通っていました。中学部から恵風支援学校に通っています。小学校の5・6年生の時は体調を崩し休みがちでしたが、恵風支援学校に来てからはマンツーマンでいろいろ丁寧に指導していただき、本人もすごく安心して落ち着いてきました。そして体調を崩さずに毎日学校に通うことができています。先生方のご指導のおかげだと思っています。現在高等部ということで、先ほどの話題に上がった就労アセスメントなど、働くということを保護者としても意識しなければならないと思っています。制度のことなど、保護者の方も不安に思っていると思いますので、その都度いろいろな情報を教えていただきたいです。

【A委員】

本日授業を拝見し、ほとんどの児童が施設に入所している方や、日中一時支援や短期入所を利用されている方々でした。施設での生活とは異なる、学校で見せる表情に触れることができました。そして、先生方が上手に導きながら指導されている姿が印象的でした。特に中学部の生徒について、小学部の頃は授業中に座ってられるのが難しいと思っていましたが、しっかりと座って授業を受けている様子を見ました。先生方が根気強く取り組んでこられた成果だと感じています。私たちも非常に嬉しく思いますし、生徒を長い目で見守ることの大切さを改めて実感しました。先生方が根気強く関わることで、生徒たちが変わっていく可能性を信じながら取り組む必要があると感じました。一方で、県内の入所施設については、他の委員の方々から質問がありましたが、入所を希望している児童が施設に入れない状況が続いていることが課題となっています。また、入所施設が存在することで、「恵風支援学校さんに転校します」という状況になる生徒さんもおります。特に内陸部の子どもたちが内陸の施設に入所できない状況が見られ、宮古に来ている状況です。やはり、事案によっては対応が必要となり、その影響が沿岸部にも及んでいます。また、大船渡の山林火災による住居への影響があった場合についての対応が進められており、宮古が受け入れているところです。こうした状況に関連して、新たな児童や生徒が学校に転入してくる可能性も考えられます。これからも連携を図りながら、子どもたちを見守り続けるために、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。